

よきかな若人

～飯綱山こそわれらが希望～

藤木校長先生のお話

後期人権教育月間に寄せて

(前略)

その子は小学校高学年の女の子だったそうです。その女の子には、とても楽しみにしていることがありました。それは、大好きな犬を飼うことです。でも、お父さんも、お母さんもなかなか納得してはくれません。「私が世話をするから」「私が散歩に連れて行くから」と何回も何回も話をしても、ようやくお父さんとお母さんを説得することができそうでした。

ところが、すぐに犬が飼えるわけではありませんでした。その子の家には、ペットショップで子犬を買うようなお金を持ち合わせていなかったのです。「お金が貯まるまで待つしかないよね」と思っていて、女の子はお年玉やお小遣いをかき集め、それを少しずつ貯めるようにしました。

しかし、お金はそんなにすぐには貯まりません。月日は流れても、子犬を飼えるだけのお金は貯まらなかつたそうです。しかしながら、女の子の夢は消えるどころか、ますます膨れ上がりました。お母さんの買い物について行つては、自分は近くにあるペットショップに行き、いつまでも子犬を見ていたのです。ペットショップの子犬を時々、抱っこさせてもらうこともあり、そのぬくもりを感じていたそうです。ぬくもり

を感じながら、女の子は何を考えていたのでしょうか。子犬と共に外で駆け回ること。子犬と寄り添って眠りにつくこと。学校から帰ったら子犬が走って出迎えてくれること。子犬との楽しい日々が、頭の中心を駆け巡っていたかもしれない。そんなある日のこと。事態は急展開しました。女の子の近所の家で、子犬が生まれたというのです。生まれた子犬は四匹。その家ではとても飼いきれないから、誰か子犬をもらつてくれる人を探しているという。どういう気持ちになったか、みなさんなら想像できるのではないのでしょうか。

「わたし、この子にする。」
女の子が抱きかかえた一匹は、明らかに他の三匹とは違いました。生まれつき足が一本なかったのです。他の三匹は、箱の中で飛び跳ね、動き回っているのに、女の子が手にした一匹だけはたどたどしい足取りで、やつとのことでは歩くことができなかつたのです。お母さんは女の子に言ったそうです。「本当にいいの？元氣な子犬のほうがいいんじゃないの？」
女の子は答えました。「私はこの子にする。だって、他の子はきつと誰かがもらつてくれるだろうけれど、この子は、誰ももらつてくれないかもしれないでしょ。」

生まれた子犬の中から一匹、女の子がもらえることに決まりました。子犬をもらいに行く日が決まり、犬小屋も用意しました。名前も考えました。いよいよ子犬を迎える日。すでに、夕方の遅い時間だったのですが、女の子は、学校から走って帰り、ランドセルを置くやいなや、お母さんと一緒に近所の家に、どの子犬をもらうか見に行つたそうです。目に飛び込んできたのは、白い犬と黒っぽい犬の四匹の子犬でした。まだ大人の手で抱えられる程の大きさで、箱の中でピョンピョン跳ねたり、差し出す手に飛びついてきたりして、かわいらしい無邪気な子犬

の物でした。ただ、ある一匹を除いては……。女の子はかわいくて、かわいくて仕方がなかったのでしょうか。どの子犬をもらおうか考えていたのでしょうか。しばらくの間、子犬たちをじつと見つめて動かなかったそうです。お母さんが女の子に聞きました。「ねえ、どれにする。」
すると女の子は、一匹の子犬を抱えて言いました。

「わたし、この子にする。」
女の子が抱きかかえた一匹は、明らかに他の三匹とは違いました。生まれつき足が一本なかったのです。他の三匹は、箱の中で飛び跳ね、動き回っているのに、女の子が手にした一匹だけはたどたどしい足取りで、やつとのことでは歩くことができなかつたのです。お母さんは女の子に言ったそうです。「本当にいいの？元氣な子犬のほうがいいんじゃないの？」
女の子は答えました。「私はこの子にする。だって、他の子はきつと誰かがもらつてくれるだろうけれど、この子は、誰ももらつてくれないかもしれないでしょ。」
こう言つて、女の子は三本足の子犬を大切に抱えて、すっかり暗くなった道を、お母さんと三人で家に帰つていったそうです。

先生方も日々、研修しています

中学校では、来年度から新学習指導要領が全面実施されます。新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善していくことが求められています。そこで、本校では、「友と関わり合いながら、思考力・判断力・表現力を高める授業」をテーマとして、互いに授業を公開し合いながら、授業改善に取り組んでいます。2学期にはこれまで、20人の先生方が授業を公開し、研修の場としてきました。今後も、「未来を生き抜くために必要な資質・能力」の向上を目指し、職員一丸となって、日々、授業改善を目指してまいります。



理科公開授業の様子(9月16日)



地域食材週間(11月16日~11月20日)



11月16日(月)
信州ポークカレーライス 長いもっこサラダ 飯綱のりんご



11月17日(火)
信濃地鶏のみそ汁 ニジマスの香味揚げ 長野豆のサラダ



11月18日(水)
長野すいとん汁 絹揚げの肉みそがけ なめたけ和え



11月19日(木)
きのこ汁 ソース信州サーモンフライ 磯部和え



11月20日(金)
キャベツのスープ 長野のれんこんバーグ 大根サラダ

11月16日(月)から11月20日(金)は「地域食材週間」でした。長野県産や飯綱町産の食材を使った献立を、生徒も職員もおおいしくいただきました。19日は長野県で開発された長野県民自慢の魚、信州サーモンをソースフライでいただきました。ソースは共同調理場手作りの特製のソースで、生徒に人気でした。20日の献立では、鶏肉、豚肉、にんじん、キャベツ等、7種類の長野県産の食材が使われました。もちろん、ごはんのみそは毎日飯綱町産です。また、毎日出される「しょくいくだより」は、生徒が地産地消について理解を深められるよう工夫されていました。信州の豊かな自然と風土が感じられる1週間でした。調理場の皆様に感謝です。